

テーマは「水稻の生産量（令和4年産）」

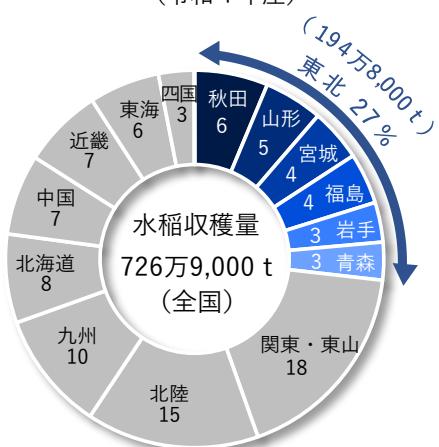


東北は全国シェア 27% の「米の産地」

東北の令和4年産水稻の生産量（収穫量）は、194万8,000t（前年産比92%）で、農業地域別の生産量シェアでは全国1位の27%となっています（図1）。

東北6県をみると、秋田県が45万6,500t（全国シェア6%）で、新潟県、北海道に次ぐ全国3位の生産量となっており、残る5県も上位に位置しています（表）。

図1 水稻収穫量の農業地域別割合
(令和4年産)



※ 沖縄は 0 %
構成割合は、表示単位未満をラウンドしているため、合計が 100 にならない。

表 水稻収穫量の全国上位都道府県
(令和4年産)

順位	都道府県	収穫量 (t)	対前年産 比(%)
一	全 国	7,269,000	96
1	新 潟	631,000	102
2	北 海 道	553,200	96
3	秋 田	456,500	91
4	山 形	365,300	93
5	宮 城	326,500	92
6	茨 城	319,200	93
7	福 島	317,300	94
8	栃 木	270,300	90
9	千 葉	259,500	93
10	岩 手	247,600	92
11	青 森	235,200	92
12	富 山	197,400	99
13	長 野	187,300	99
14	兵 庫	177,000	101
15	福 岡	164,000	100

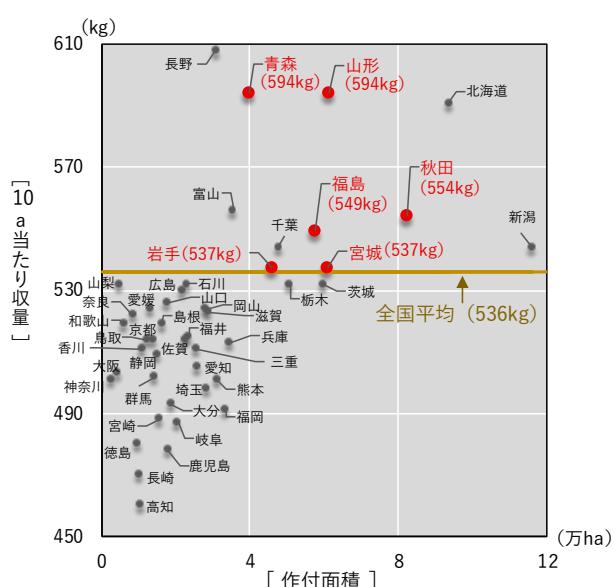
※ 収穫量は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ。）。



全国平均より単収水準が高い東北

東北 6 県の 10 a 当たり収量（単収）をみると、青森県と山形県が 594kg で全国 2 位のほか、残る 4 県も全国平均（536kg）より上位に位置しています。作付面積との関係でみると、新潟県、北海道、東北などの作付面積が大きい都道府県は 10 a 当たり収量も高い傾向にあります（図 2）。

図2 水稲作付面積と10a当たり収量の分布
(令和4年産 都道府県)

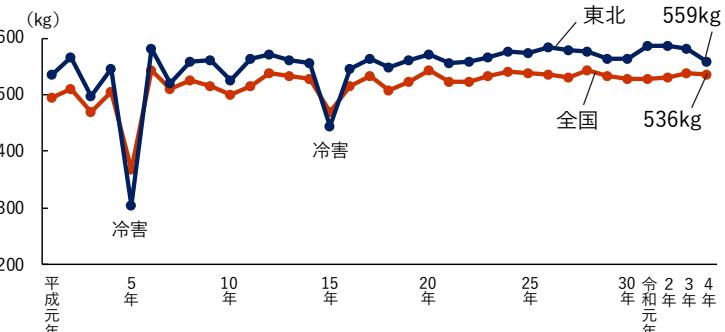


※ 付作面積は子実用、10 a当たり収量は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ）。

10 a 当たり収量を時系列でみると、東北は平成5年と15年の冷害年は全国平均を下回っていますが、平成元年以降550kg程度の水準で推移しており、全国平均を上回っています。

なお、令和4年産については、田植え期以降の低温や日照不足、8月の大雨の影響などにより作況指数が「98」のやや不良となり、東北の10a当たり収量は近年で最も低くなりました（図3）。

図3 水稻10a当たり収量の推移(全国、東北)



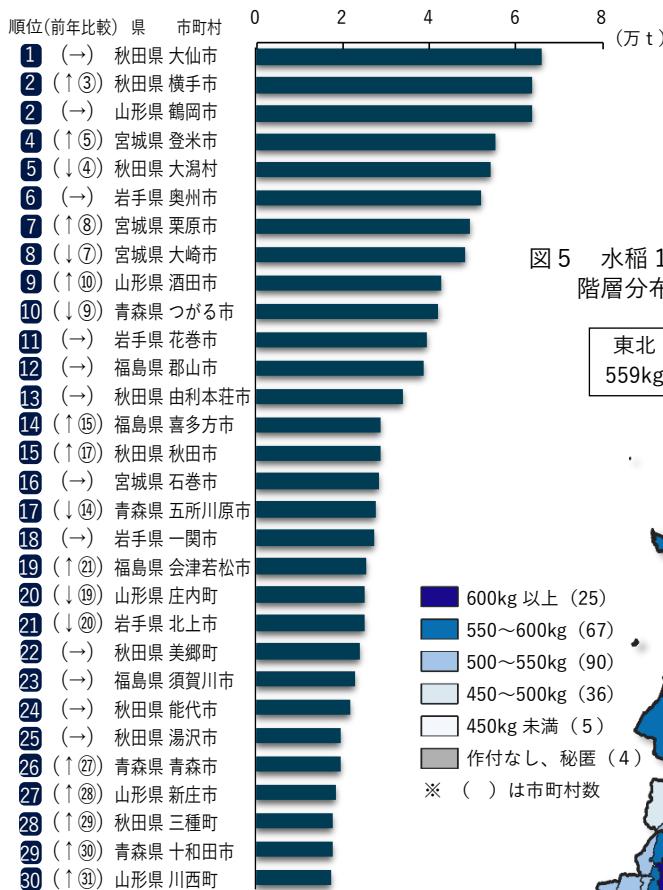


市町村では秋田県大仙市が東北1位の生産量

東北全227市町村のうち、令和4年産の水稻は224市町村で生産されており（前年同）、生産量では秋田県大仙市が東北1位（6万5,900t、順位は前年同）となっています。

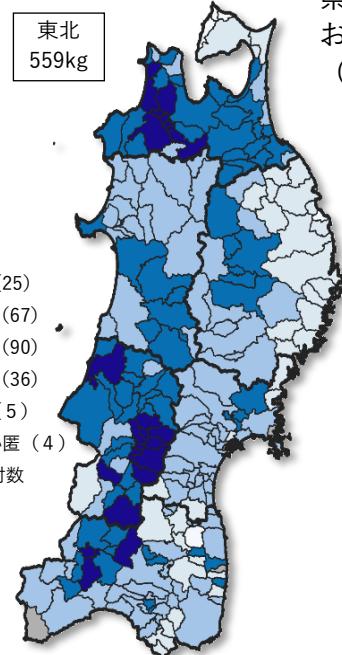
上位30市町村が所在する県をみると、秋田県は最も多い9市町村、山形県は5市町、青森県、岩手県、宮城県、福島県は各4市がランクインしています（図4）。

図4 水稻収穫量の市町村順位（令和4年産、東北）



※（前年比較）の矢印は前年順位と比較した動きを表す。順位に変動があった場合は前年の順位を併記。

図5 水稻10a当たり収量の階層分布（令和4年産）



500～550kgの単収が約4割

各市町村の10a当たり収量を階層別にみると、500～550kgの階層が90市町村と最も多く、東北全体の約4割を占めています。

また、550kg以上の階層は92市町村で、青森県と山形県が30市町村、福島県が16市町村、秋田県が7市町、岩手県が6市町、宮城県が3市町となっており、日本海側に多く分布しています（図5）。

■ 水稻の市町村別統計とは
「作物統計調査」を実施する上で把握した地域における標本調査、現地見積りの結果、関係機関からの情報等を踏まえ、県計値の内訳として作成した加工統計です。

東北の水稻市町村別統計の詳細は、東北農政局ホームページをご覧ください。なお、全国の水稻市町村別統計は、取りまとまり次第、農林水産省ホームページの作物統計作況調査（水陸稻）のページに掲載されます。

東北農政局ホームページ
-統計情報-
公表予定及び公表結果



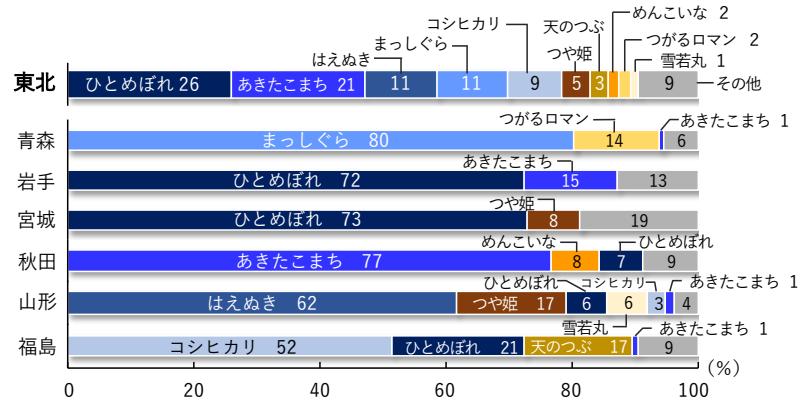
東北で生産される米の銘柄

令和2年産米の銘柄別検査数量（農産物検査実績）をみると、東北は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」、「はえぬき」、「まっしぐら」の4品種で全体の約7割を占めています。

県別では、青森県は「まっしぐら」、岩手県と宮城県は「ひとめぼれ」、秋田県は「あきたこまち」、山形県は「はえぬき」、福島県は「コシヒカリ」の割合が高く、東北管内でも県ごとに主力品種が異なっています。

出典：農林水産省「令和2年産の農産物検査結果」

◆ 令和2年産米の銘柄別検査数量の割合（東北、東北6県）



Tips 豆知識

※構成割合は、水稻うるち玄米について、産地品種銘柄別検査数量を総検査数量で除算したものである。
表示単位未満をラウンドしているため、合計が100にならない場合がある。

-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部企画課 電話：022-745-9378

水稻の作付面積、収穫量、市町村別データ、用語解説など「作物統計作況調査（水陸稻）」の詳しい情報（公表資料）はこちらからご覧いただけます。

農林水産省ホームページ https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/

